

平成29年9月30日（土）

—里山ルネサンス対談— 「呉羽丘陵からの里山回生を考える」

「対 談」

対談者：富山市長

森 雅志

富山市ファミリーパーク 名誉園長 山本茂行



山本名誉園長

市長は毎年1回新しいものにチャレンジして人生の幅を広げていると聞いていますが結構、山や海など自然に関するものが多いのではないですか。

森市長

山について

富山市での薬師岳中心の登山は、長野・岐阜・富山の三俣山荘で、その山を開いたのは伊藤さんという方です。深山の開発とは登山道をどう作るかです、それ以前に薬師岳に上がっていたのは猟師の人たちです。江戸時代から雄山、立山などの奥地でも熊や鹿やウサギを取りながら日ごろの営みは有ったということです。しかし、そこには集落はありません。

今では、そういった所へ2泊3日などのレジャー気分で行きます。

山へ行く人たちは山を汚してはいけないと自覚していますし、ゴミを捨てないし登山道から外れないなど、しっかりルールを守っています。登山をする人は山に対す思いというのは非常に大きいものがあるように思います。

## 海について

一方、海ですが、富山湾というのは本当に気軽に楽しめます。私は5人でヨットを所有していますが、ヨットといっても琵琶湖に有った中古を安く購入したのですが、係留費は海流丸パークで1艇2万円/月です。東京の人たちが油壺などで毎月何十万もかかることを考えたらとても贅沢な遊びですが、富山ではごく普通の我々が何人かの友達で所有すれば、月2万円を5人で払うと一人4千円ですし、ヨットは燃料を食わない訳ですから気軽に楽しめます。

富山湾の魅力は、海岸からではテトラポットしか見えませんが、富山湾は100%人口リーフです。砂浜といっても、砂浜の外に人口のものがあって侵食を防いでいます。本当の自然の砂浜というのは富山湾には全くありません。そのテトラポットの先、定置網の先へいくと大変豊かな海があります。定置網の外から見る立山連峰は本当に素晴らしい。富山湾はあまりゴミも無いし、いい海だなと思います。山も楽しめて、海も楽しめるというところでは。

## 川について

川では一度だけですが、神通川の第三ダム、雅楽俱の下あたりからゴムボートでラフティングで降りて来たことがあります。ニュージーランドで資格を取った方がやっていたが事故で辞めてしまいました。今は、白馬の人が黒部川でやっています。黒部川で鮎釣りをする人がいないので十分できます。

神通川は6月の中旬から鮎釣りの人が両岸にいて、そこをラフティングで降りてくると皆さんに迷惑がかかります。観光としてどうなのかと思ってやりましたが、これは無理だなと感じました。神通川は富山空港前では流れがほとんどなくて止まったような状態になり、ライフジャケットを着用してゴムボートから降りて浮いていると、そこに飛行機が下りてくるという、大変良い場所です。

## 里山に住み、森、海、川を楽しむ

森・里・川・海という意味では、森もあり、川もあり、海もあり、そして呉羽丘陵があります。私は今も呉羽丘陵に住んでいますからテレビ塔のある城山からファミリーパークにかけて、小学校の頃は山の中に隠れ小屋をつくるなどしていろいろなことをしてきました。今でも呉羽丘陵の道は良くわかっています。茶屋町から古沢にかけての呉羽丘陵の道はどこの道を降りるとどこへいくのかはわかっています。

ほとんどは北陸電力送電線の鉄塔を作るために作られた道ですが、もともと里山として薪を取るための道も入っており、十分楽しんでいただけます。そういう意味では、山も里も川も海も楽しんでいます。

### 山本名誉園長

すべては体験という点で共通していますが、そういう意味では呉羽丘陵での原体験というのはあるのですか。

### 森市長

小学生の頃はすごい運動オンチで体育の授業は大嫌いでした。跳び箱を一度も飛べたことがありません。また逆上がりはなんとかできましたが、マットの上で回転したり、バク転する人は信じられませんでした。ところが中学になると1500m走などの中距離走がありまして、自分では運動は苦手だと思っていましたが結構早かったの、そこから運動が好きになりました。それはやはり、山も中を走り回っていた影響があるのかもしれないね。

### 山本名誉園長

先ほども紹介しましたが「日本の秘境」という岡田さんの本で紹介されている場所に、行ってみたいとおっしゃっていましたが今でもそのお気持ちはありますか。

### 森市長

今、この本は文庫本しかありませんが以前の大きな本で見ると醍醐味が感じられます。この本に紹介の中で紹介されている一番近い場所は白山スーパー林道の中宮温泉ですが、マムシがいっぱいいるのであまり行ってみたいとは思いません。その他の秘境もいつかは巡ってみたいと思いますが、あの本が書かれたのは柳田邦夫さんや宮本常一さんが民俗学として日本のいろんなところを書いた当時とは違いますので、日本の秘境だと思って行ってみたら観光地みたいになっている。これが先ほど山本さんが言っていたことだろうと思います。

### 山本名誉園長

そこですよ。本来が奥山だったところにも人の手が入ったのですが、人口が減り、それも維持できなくなっています。中途半端に放置されており、本当に自然に還るのかと感じます。中途半端な時代だと感じますね。

### 山本名誉園長

先ほどブッシュパイロットの話をしました。アメリカの人たちは開拓魂というのか、自分達で道もないところでログハウスを作ります。そういうことに関心を持っている人は

道がなくても湖に飛行機が下りてきて、最小限度の食料をもらいながら生活をします。そういう風な半別荘というか、地球人という生き方をしている人が多くいますが、これからの日本の奥山というのはそういう思考でないと生きていけないのではないかと思います。要するに道が1本つぶれたら何もできないというのが、日本の山岳地帯の大きな特徴だと思います。そういう所は自然に、奥山のなすがままに還していき、我々は最小限度の都市空間の里山を維持して、守っていかなければならないと考えています。これについてはどうお考えですか。

## 森市長

今も日本には白神山地のように手付かずのところは残っていて、そこは全く人の手が入っていません。一方、かつて原野であった北海道は開拓してどこにも町ができています。そういう所で人がいなくなるとしたら本当に自然に戻るかということ、中途半端だけれどもそうになっていかざるを得ないでしょう。一方、昭和の初期ぐらいまでは戸籍をもたないサンカという道もない山の中で暮らしている人たちがいた。そういう人たちが一定程度日本中にましたが、今はそういう人たちは全くいないので、車でいけるところでしか住めない訳です。富山では、大山町の亀谷の奥でかつて黒川ダムを作ろうとした道をずっと行くと集落であった跡があります。昔はバス停もありましたが、今は何もなくて石垣だけが残っています。いくつかそういうところは富山にもあります。そこには誰も住んでおらず、放置せざるを得ません。山菜を採る人しか入らないし、どこで線を引くかということではないでしょうか。

違う視点でいうと富山市は八尾の中山間地の一番奥の奥から農業用水を取っているあたりの方がいなくなってきました。頭首工（とうしゅこう）が維持されないと農業用水が維持されなくなります。そうすると中流域に水が来なくなり農業もできないということになる。それを防ぐ為に、八尾の中山間地の多くは何も作らなくても田んぼに水を張るだけで10アールあたり1万円出しています。だから、こういったものは、都市生活者が負担してでも最小限の維持をしていくということをやらなくてはならないと思います。

## 新しい税制

今、まさに環境省は数年前から森里川海という言葉をかんに使って、国会で決議がされておりまして、平成30年度に森里川海を守るための新しい税制議論がされています。まだわからないが方向性だけは打ち出されています。簡単に言うと、東京をイメージしてもらえば良いのですが、沢山いる都市生活者にも一律いくらか税として負担してもらい、それを森里川海の維持のために使おうというものです。これは国でもそれが必要だという議論がおきていますので、それができれば一定程度の財源はできるだろうと考えています。しかし、負担する都市部の人たちが賛成されるかどうかです。例えば水道料金に一律に上乗せするなど、いろんなやり方がありますが、今、環境省が考えているのは市民税に上乗せ

をしてその分だけは一旦国が回収し、再配分するというものです。これは都会には使われません。こういう仕組みを考えていますが、当然都会の人を中心に反対が予想されます。国会議員は人口比で定数が決められていますので通るのかどうか分からない状況ですが、制度としては議論されています。

そういう財源を当てながら、どこまで手厚くするかです。全て今までと同じようにはできませんから。あるところで線引きをして、比較的影響がでないようにどこまでできるかでしょう。

### 山本名誉園長

冬季に1日に車が1台しか通らない道を除雪したり、電気を維持するよりは、自家発電にしてもらいドローンで運び、生活に必要な水は簡易浄化装置を補助するなどして、これからは意識を変えていかなければいけない。

### これからは意識の変化を促される

私が今日ここで一番言いたいのは、日本中の全ての国民が同じ立場で同じサービスを受けて住んでいく時代ではないということです。そこに住んでいる人たちがそういう意識を持ち、相当真剣に考えていかなければいけないと思っています。

要するに、日本国民はもらうという当然の権利に慣れすぎているのではないのでしょうか。自分が生きていくためには自分はどの様な考えを持ち、どこで生きていくかということを決めるということです。大都市で生きるのか、地方都市で生きるのか、里山で生きるのかということをお我々は考えていくと同時に、行政は様々な政策や仕組みと結びつけていかないと地方都市が消滅するといわれる時代だということです。我々の将来を自分の問題としてしっかりと考えないとならないと思います。そこはどうでしょうか。

### 森市長

海難事故を起こすと本人負担がなくても救助されます。好きでヨットをやっているのに、遭難したら公費で助けに行きます。好きで登山していて山の中で倒れて、骨折して崖から落ちて死にそうになると、今のところ公費で助けに行きます。それはいくら好きで行っても人命というものを考えるとキチットしたことを考えなければいけないということですが、そろそろ山に関しては、費用負担してもらおうという議論が起きています。富山県はまだ負担はありませんが、長野県が防災ヘリにお金を負担するようになりました。ここが1つポイントでありまして、憲法上の生存権というのがあるので、もともとその集落に住んでいて最後の一人になったとき、あなたは好きでそこにいるので勝手にやってなさいという訳にはいきません。そこには救急車も行かなければならないし、お医者さんに行く時には過疎バスみたいなものも走らせなければなりません。ところがもともと人が住んでいなかったところに自分が好きで行ったのだとすると、自己責任で考えてもらわなければなりま

せん。問題はそういうことではなくて、集落で最後の一人になった人の生存権を都市生活者がどこまで守れるかというところがポイントです。

この時に都市生活者と同じ行政サービス水準を要求されてもそれは難しいでしょうね。だから離島に住んでいる人、例えば舩倉島（へぐらじま）に住んでいる人が金沢に住んでいる人と同じ行政サービスをしてくれといわれてもそれはできないし、それは妥当性の議論だと思うので負担する人とサービス享受する人のバランスで出来るところまでやるということでしょう。

### 一律平準された行政サービスは期待しない

今の富山市の財政でいうとまだまだ過疎バスを走らせるというのは出来ますが、そういうことが途絶えないようにどこかで稼がねばなりません。どこでキチッと税収をつくるかです。先ほど例に出した中山間地の何も作っていない農地に水を張るだけで1万円を払っている、それは皆さんが納めてくれた税金で支払いしています。

整理すると行政サービスを一律平準されたものにしていくことは不可能で、それぞれの地域特性に合わせていく必要があります。一方それを維持するためにどこかで財源を作らないといけませんので、それは都市部が担っていただく。都市部が担ってくれた税収を、里山の維持と奥山での最低の生活保障に使用するということです。

この議論と呉羽丘陵をどうするかというのはまた、別の議論ではあります。

### 山本名誉園長

#### きんたろう倶楽部は何をしていくべきか

この森林飽和と人口減少の時代の中で、きんたろう倶楽部は里山回生ということで何をしていくべきとお考えですか。

今、我々日本人が生きるチカラというのは昔のような里山の使い方や利用の仕方に戻すという風にはいかないと思います。かつて、そこからものを取ってくるというのが里山でした。我々は都市の近くにおいて、そこで里山から何を取って来るかという、具体的な資源ではなくて、我々自身のリフレッシュであったり、健康であったり、そういうものに特化していくのではないか。そうすればそういう場所で、里山の自然環境を作りなおす、都市の直ぐ傍で作りなおす、そこには熊なんかもやって来ないバッファゾーンを作った上でそういう展開をしていくことがこれから求められてくると思います。

その一番大きなモデルになるのが地形的にもわかりやすい人の活動もある呉羽丘陵ではないかと思いますが、市長の地元である呉羽丘陵に関してのお考えはどうですか。

### 森市長

#### 呉羽丘陵に対する考え

今、テレビ塔が立っている山から城山にかけては、私が子供の頃に吉作の方から見ると

ほとんど木がない状態でした。戦争時代と戦後にまき薪炭で木を全部使ってしまいました  
が、今は立派な木が多くて土肌が見えない状態です。私が小学校の頃は土肌が見えていま  
した。それぐらい数十年で変化する訳です。でもそれに手をつけなかったのが、今の寺町  
や金屋の孟宗竹の繁茂はもの凄くて、昔は歩けた道も今は歩けないぐらいにひどくなっ  
ています。孟宗竹はなんとかしないといけないと思います。予算を付けて切ってもらよう  
にすれば良いのですが、なかなかそこは難しくてきんたろう倶楽部の皆さんにボランティ  
アでやっていただいているのは大変ありがたいという風に思います。

ご無理のないように楽しみながらやっていただければよいのですが、幾つかの企業は、  
活動としてとり組んでもらっていますし、人は出せないが費用負担はできるという企業も  
あります。富山市として呉羽丘陵は大変大事なものですから、先ほど言った新しい税がで  
ければそのあたりを使いながらもう少しスピード感を持ってやっていく必要があるだろう  
と思います。

もともと西側の斜面は農地として使用されており、問題はありません。東側は隆起した  
急斜面ですから、昔から農地として使用されていない斜面です。寺町から金屋、富山大学  
の付属病院にかけての竹が特にひどいですね。あのあたりに手を入れるための財源をどう  
作るかだと思います。先般、新聞で金屋の皆さんが、新たに自分達で見つけた滝を公園に  
しようという記事がでておりましたが、こういう取り組みなど大変ありがたいなと思いま  
す。

## 山本名誉園長

### 健康という観点からの呉羽丘陵

あとは呉羽丘陵の健康という観点からの利用ですね。実は細長い呉羽丘陵、呉羽山と城山  
の間には県道がありますが、信号もないし道也没有せん。

あれだけの細長い空間がある場所はそうそうありません。いろいろな健康のための利用  
の仕方が出来ると考えておりますが。

## 森市長

呉羽山を良いとおっしゃる方は沢山いらっしゃいます。尾根沿いは草もほとんど生えて  
いおらず、歩きやすいですね。市役所に勤めている呉羽地区出身の職員の会がありまして、  
その会は1年に一度ですが旧8号線の多目的広場に集まり、そこから山に入りごみを拾い  
ながらファミリーパークまで行きます。ファミリーパークでバーベキューして、集めたゴ  
ミの量でバーベキューの肉の量が決まります、まあ、これは冗談ですが、山にはほとんど  
ゴミは落ちていないですね。ゴミを捨てるような人はいません。

八カ山から旧観光ホテルにかけてもずっと繋がっているの、そちらで散策している人  
も多いと思います。もっとあの山を楽しんでもらえたらな良いですね。

## ビジターセンター付近

五福の富山大学前から高岡方面へ行くと丁度峠のかかるところに多目的広場があります。そこにはビジターセンターがあり、そこにフットパスという表示がしてあります。

フットパスというのはイギリスでの運動で、昔からある農道を誰でも通れる権利があるという制度になっており、人の敷地に入っているけど、誰でも通れるというルールになっています。それを辿って歩くというのが、1つの文化になっています。それを呉羽丘陵で復活できないかということで「呉羽山フットパス」というのをやっています。

今年度末になりますが、街中にある自転車のアヴィレのステーションをこの多目的広場と、富山大学の入り口付近構内と民俗民芸村に作ります。

街の人たちには自転車で多目的広場まで行って、呉羽丘陵を楽しむということを是非やって欲しいのです。

## 橋を架けて連続したフットパスにしたい

最後は旧8号線の上に橋を架けたらいいのですが。あそこを降りてくると横断歩道もなく、なかなか横断できません。ただ、試算をすると作るのに何億円もかかります。そもそも県道なので県の許可がおりるかどうかわかりません。本当はあそこに人が歩ける細い橋を架けられたら、八ヶ山からずっと歩けるフットパスの道になる。

## 山本名誉園長

富山は新幹線で東京から2時間半となりました。東京の人は、2時間ちょっとで高尾山に年間で350万人の人達が行きます。歴史はありますが、呉羽丘陵のほうがよっぽど良いと思います。市長が言われたとおりで、そういう風な使い方を考えたら自転車でそこまで行って丘陵を歩いて、どこかでご飯食べてという楽しみ方に、例えば、薬草や山菜を採ってくるとか、お風呂に入るというようなバリエーションや付加価値を付ければ、相当いろんな展開ができると思います。そういう展開ができる資源がここにあります。それを誰かが結びつけていけばよいのです。

その山菜と薬草とお風呂を誰が結びつけていくか。それを結びつけていく人が呉羽丘陵に必要なだと私は思います。それは実はきんたろう倶楽部の皆さんのこれからの大きな仕事になってくるのではないかと思います。そのあたりはいかがですか。

## 森市長

それは鏡森先生にやってもらいましょう。

鏡森先生の山荘を集合場所にして、呉羽丘陵を楽しく歩くのはどうか。山荘で先生の作られた薬膳料理を楽しんだり、七面堂から上がっていくと何人かの歌碑があったり、それから常願寺川のグミの群生ではないですが、ファミリーパークの近くへ行くとグミがあります。



私は昔から山を歩いていたのでどこを歩くと何があるのか解りますが、これを追いかけながら行くと面白いのかもしれないね。

今の呉羽ハイツあたりは沢山のわらびが採れたところですよ。市の土地なのでわらびやぜんまいなどを入れて取っても良いと思いますし、竹の子も取っても良いと思うんですけど、そういう楽しみ方を少しずつ見つけてもらって呉羽丘陵を楽しんでもらうのが良いんじゃないかと思います。

### 山本名誉園長

私は呉羽丘陵には適度な広さと大きさがあると思います。そんな中で山菜をとるのが得意な人や、薬草がわかる人もいて、木を切る名人もいれば、食べられる草を見分ける名人もいれば、どんぐりを回す名人もいる。それぞれバラバラのものを束ねれば1回来ると10の楽しみがあるという様な節目にきんたろう倶楽部の人がいるような仕掛けが必要になってくると思います。

木を切る、草を刈るだけではなくて富山県のナチュラリスト（昭和49年に地方自治体としては全国で初めてボランティアによる自然解説員制度を創設）だけではなくて、実際に山菜料理を教えるとか薬草を教えるとか、かじってみる等と結びついて行けば、健康と楽しみ方がどんどん膨らんでいって呉羽丘陵の利用がもっと広がると思います。

きんたろう倶楽部の人たちが呉羽丘陵で、地域の人たちとのつながりでそういうことを行うコーディネーターとなれば、非常に楽しい場所になると思います。

### 森市長

ある話を山本さんとしていた時期があります。呉羽少年自然の家ですが、富山県は新川と高岡は各市に渡して手を放しました。それなら呉羽少年自然の家をファミリーパークと一体にしようと考えていたが、呉羽少年自然の家は県で運営することになりました。本当は呉羽少年自然の家と富山市ファミリーパークを一体的に運用できれば、夜間は呉羽少年自然の家に泊まり、富山市ファミリーパークでナイトゾーンや星空を見るなどの体験ができるのもったいないなと思っています。

せめて子供達が呉羽少年自然の家で泊まり、ファミリーパークと融合した企画が出来れば良い。それがなかなかそれが実現できなくて。

### 山本名誉園長

もう1つ大事なのは施設連携と、それを結びつける人々だと思います。財政が豊かでない時代ですから、そういうことをやれる講師になれる人たちが必要だろうと思います。今、きんたろう倶楽部で活動している方々は木を切ったりするのは得意な人は多いと思いますが、そういう風な活動を広げていければ良いですね。そうであればきんたろう倶楽部に係って何かにかやってみようという層の人たちが増える

のではないのでしょうか。それぞれの年齢層がそれぞれの得意分野できんたろう倶楽部での役割をどう感じることができるかですね。

#### 森市長

きんたろう倶楽部の方々には、本当にご苦労いただいていますし、ありがたいと思っています。設立の時は一所懸命に汗をかきましたが、山本さん、鏡森先生を中心にやっただいており、ご無沙汰しています。新しくメンバーをどう作るかということが問題なのだろうと思います。リタイアされてもまだ元気な方々や、運動に参加することが楽しいと思っただメニューをどう作るかだと思います。

今、突然思いつきましたが、養老猛先生を呼びますか。この間お会いしたのです。実は私、地方の税制を良いものにしようという森里川海を考える会の会長です。2ヶ月ほど前にその会で養老先生に来ていただき、森里川海がいかにか大事かという話をしてもらいました。お願いしたらまた来てもらえると思います。養老先生はきんたろう倶楽部名誉顧問ですよ。もう一度養老先生に来ていただいて講演会か何かをやってはどうですか。

#### 山本名誉園長

以前、養老先生はずっと名誉顧問のままで良いとおっしゃっていましたしね。

#### 森市長

いろいろ考えて新しい人達に来てもらい、多くの人に自分はこれならならできるというのを考えてもらうというはどうですか。

#### 山本名誉園長

そうですね、それぞれの得意分野を出してもらい、展開できたら本当に良い場所になると思います。

#### 山本名誉園長

ところで、きんたろう倶楽部という名前はどのようにして決まったのですか。

#### 森市長

山本さんが付けたのでは？

#### 山本名誉園長

いや、私はちょっと言っただけです。森市長が新聞記者の前でそのように言ったのでそうなったのかなと。

## 山本名誉園長

きんたろう倶楽部という名前はいかがですか。

## 森市長

定着しているのでそれで良いのではないですか。

au のコマーシャルにも出ていますし、親しみもある。森にぴったりだと思いますが。

## 山本名誉園長

猪、熊、鹿など野生動物の深刻な問題があります。野生動物に関する市長の基本的なスタンスや考え方があればお聞かせ下さい。

## 森市長

環境省は3年前からスタンスが変わりました。野生動物の保護から管理に変わってきました。つまり駆除を一切認めないというスタンスだったのが、印象として適正な頭数や持続性のある生存数に変わってきた。かつては、それぞれに天敵がいてうまくまっていたが、狼もいなくなり、もともと自然になかった餌が手に入るようになったことで、おかしくなってきました。

まずは、適正な頭数にしていくことが大切だと思います。

その為には駆除もしなければなりません。例えば、ライチョウがいるような高さのところにまで、天敵としていなかったものがあるようになり、呉羽カントリーにカモシカが出たり、高速道路をどうやって渡ってきたのかわかりませんが我が家の隣まで来ました。ファミリーパークのものが逃げ出したかと思いました。そこを何とかしないといけません。なので山本さんがおっしゃる緩衝地帯を作るという話もあるし、私が言った駆除という話にしても、駆除する人の絶対数がいなくなっている中で、それごと育成していかねばなりません。

特に熊に関してははっきり大きな狩猟用の銃でないといけませんから、そういう人を育てていくのは難しい時代になって来ています。熊を年間5頭撃って暮らしていますという人が今、ほとんどいなくなっています。

レーザーで2 km先を最新鋭のスコープで見るというスポーツとしての狩猟をやっている人は富山市にもそういうグループはいらっしゃると思いますが、いざという時にやってくれるかというところは猟友会とは違います。そういう難しさはありますね。

あともう1つ、狩猟でやっている人たちは撃った後にどうやって死体を回収しやすいかというのを考えて撃っています。斜面で撃つと下へ落ちるとか、ただ撃てばいいというものではありません。そういうこともわかる人が少なくなっているという問題もあります。

まとめると問題は二つあります。

一つは緩衝地帯をどう作るかということ、もう一つは緩衝地帯を越えてきたものをどう

駆除するかということです。

夕方の薄暮になったら撃ってはいけないとか、家が連たんしているところで撃ってはいけないとか、そこにいるのがわかっている、6時だからもうだめですよというのが今の法律で、これはかなり強い法律なのです。

麻醉銃を撃つというのは、山本さんの専門ですけど、ただ獣医さんがいればいいというものではなくて、麻醉銃を撃ってもいい獣医さんがいないと麻醉銃は撃てません。こういう制度的な難しさもあります。

整理すると、ハード整備としての緩衝地帯をどうするか。これは山本さんがおっしゃったように積極的に木を切りバッファゾーンを作るとします。これを作ろうとすると、自然保護だという方の中には、それは良いという方やそれもダメだという人も出てくるでしょう。適正頭数にするためのマンパワーをどうするのか、制度的な問題をどうするかです。

### 山本名誉園長

そういう意味では、全てにおいて過度期であり、我々が小さい頃に習ってきたことや観念を全部引っ張り出して来てリセットしなければならない時代になっている気がします。先ほど、保護か管理かという話がありましたが、動物だけではなく、植物も一緒です。草木を大事にしましょう、採るのはいけませんよと言って、そのままにしておくと自然はどんどん変わっていきます。遷移していくものを取ってはいけないといったら、人の手がないと、勝手に自然の力で変わっていきます。

先ほど森市長がおっしゃったように呉羽丘陵では竹の子や山菜を採りますが、普通の市長さんならこれは市の公園だから、みだりに植物は取ってはいけませんと言います。でも、採っていかないとその管理はできないということを考えなければならない時代特に私がここで言いたいのは、そういう時代の変わり目に生きていて、我々の昔の価値や考え方、小さい時にこうだったああだったというのを全て引っ張り出して、生き方を含めて見直して、我々の人生を深く豊かにしていくことを考えねばなりません。その、機会があるのが、呉羽丘陵ではないかと私は思っています。

### 森市長

かつては私の家は農家で、竹の子を掘る「ばち鍬」や竹の根を切る道具がありました。今は農家でさえ、そのような道具はありません。わかりやすくいうと、昔は餅つきの臼と杵がありましたが、我が家にはもうありません。

ところ左様に呉羽丘陵で農業をやっている家でさえも竹の子を掘る道具がなくなっているというのは象徴的です。誰も採らないので竹林がどんどん広がっていくという、難しさがあります。だけど、そのことを気づき始めている訳ですから、このままではダメだと感じています。理想論も語りますが具体的にどうするかというと、やはり財源になりますので森里川海の新しい税制がもしも通るとすると、どう配分するかということについて、時

期がきたら積極的に発言をしようと思っています。そのために会長をしています。私の理屈で一番わかりやすいのは森林面積按分（あんぶん）をするということでしょうか。守るべきものがどの自治体にどれだけあるかをわかりやすく数値化して評価していく作業が大切で、税制が通りそうになると配分の問題がにわかに出てきます。なので、今、こっそりチカラを入れて進めています。

ということで、終わりにしたいと思います。